



善ホエッセイ

はこだて旅便い

「今日もぷらぷら」

120

「途中下車で 双子の富士山を発見?!



文月 齊 (ふみつき さい)
埼玉県出身。
人と街、自然と文化を題材に、
みちくさばかりの旅を続ける
エッセイスト。
函館、埼玉、大阪を拠点に
旅を満喫中。

前略、変わりはないか?
先日、久しぶりに「青春18きっぷ」を利用した。JRが年に3回発売している切符で、普通列車が一日乗り放題になるお馴染みのアレね。昨年から流行病の影響で、旅らしい旅をしづらくしていないせいかな、なんだか無性に旅の基本に戻りたくなってるね、普通列車の旅に出てみたんだ。旅の始点はJR函館駅。僕がこの街に来た頃は、ここからどっちに向かうか幾つか選択肢があったけど、時代の流れで廃線が進み、今では函館本線で北上するルートのみ。急に思い立ったのでプランを練る時間もなく、今回は長万部温泉に日帰りで行くことにした。そう、以前にも何度か試したことがあるプランだけど、今回はちよっと様子が違ったんだ。というのも、長万部から函館に戻るとき、森駅を出た列車が早々にスピードを落とし始めるんだよ。あれ、次の駒ヶ岳駅までは20分くらいかかったはず。線路にシカでも出てきたのかな? と思ったところで思い出した。そうか、砂原線か。
函館駅と長万部駅を結ぶ函館本線には森駅から駒ヶ岳を迂回するように走る砂原支線と呼ばれるルートがあつて、僕が乗り込んだのはそっちを通る線だったんだ。列車は停まり、窓の外には三角形のコンパクトな駅舎が出現。その可愛らしいデザインに、つい「降ります!」と下車することにした。一本道を行く列車を見送り、改めて駅舎を観察する。駅名は東森駅。テントのようなフォルムの駅舎で、積雪を想定してのデザインだろうと想像する。駅前周辺には民家が数件あるだけで、無人の駅舎内には誰でも自由に書き込める「駅ノート」があるくらい。次の列車を待つまでの唯一の時間潰しとして役立ちそうだが、今年の6月20日にリニューアルされていて、すぐに読み終わってしまう。まだ1時間あるかあ。じっと待っていても寒いだけなので、一つ前の森駅まで歩くことにした。
森駅までは道なりでおよそ2km。のんびり歩いても次の列車まで十分に間に合うので、まずは周囲を散策することに。とはいっても、やはり目を引くものは特になかったよ。ただ、代わりに素晴らしい駒ヶ岳のビューポイントを見つけた。ほら、普段は函館の街側からばかり見てるでしょ。左側に尖った剣ヶ峰があつて、右になだらかな馬の背が見えるけど、それがこの辺りからだと砂原岳と剣ヶ峰が同じような高さで並んでいて、まるで双子富士とも呼びたくなるような姿で見えるんだ。縁起の良い風景を見ることができて、それだけでも途中下車した甲斐があつたよ。
駅を出てから寄り道をしつつ30分くらい経ったかな、森駅手前まで来てると急にお店やらスーパ―が出てきた。そういえばお昼ご飯を食べてなかったっけ。「みゆき販売」と書かれた昭和レトロな雰囲気のお店に入ってみる。中には八百屋さん、酒屋さんが並び、その一番奥にお肉屋さん「佐々木精肉畜産」があるんだけど、ここが凄かった。商品を見ると自家製のハンバーグや、保存料や人工甘味料不使用の無添加自家製ソーセージ、下味を付けたホルモン系のお肉など美味しそうな食材がずらり。ちよっとお店の母さんがホルモンを袋詰めにしていたので話しかけると、ふるさと納税のお礼品を用意しているとのこと。なるほど、どうやらここは地元のを支えてきたお肉屋さんなんだろうね。よく見ると、作りたての大福餅や、黄金色に輝く栗きんとんもあつて俄然お腹が空いてきた。列車の時間が迫ってきたので、おしゃべりもそこそこ自家製チャーシューを買って帰ってきたけど、これが大正解! よくある市販のパサパサした「出酒らし」系とは違って、脂の旨みがしっかりと残って美味しいのなんの! そういえば、茹でたりしないのでしっかりと一時間以上炙り焼きにするって話してたっけ。タレに1週間ほど漬けておくと、肉を熟成させる特殊な冷蔵庫があるから作れるんだってさ。母さんも自宅では作れないって言うってたよ。味見だけのつもりが、あつという間に半分食べちゃったけど納得だ。
え、私も食べたいって? そうだね、18きっぷがまだ残ってるから、旅でもしながら君の住む街まで届けるかな。途中で食べちゃったらごめんね。それじゃあまた。



法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

さらに詳しくはWEBへ

イータックス

検索